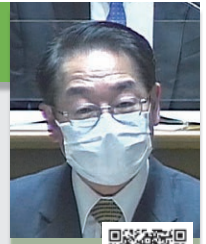


共に創る掛川



鈴木久裕

質問者

久保田市政のもとでの
総合計画の在り方は

Q 総合計画の基本構想を3年続けて改定するなど前代未聞である。今年春に定めればかりの将来人口まで見直すくらいなら、松井市政のもと策定した第2次総合計画再改定版の再焼き直しではなく、久保田市長の方針や施策の考えをしっかりと織り込んで、改めて第3次総合計画として策定していくべきではないか。

A 昨年度、「第2次総合計画基本構想」を改定しました。今年度も、コロナの影響が長期化する中、変化する状況を的確に捉え、基本構想の「7本の戦略の柱」を軸に、将来人口なども含めて、ポストコロナ社会のまちづくりに向けた計画の改定を進めていきます。

都市計画道路「掛川東環状線」の整備は

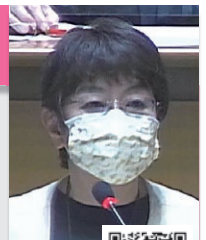
Q 東環状線は東名掛川ICと国道1号千羽インターを結ぶ4車線の道路で、市内外の交通利便性向上や既存道路の渋滞回避、周辺土地利用の増進など、市の発展に大きく寄与する。今こそ思い切って事業化すべきではないか。

A この路線の整備には莫大な事業費が想定されており、慎重な判断が必要と考えています。令和4年度から、県が主体となり、総合都市交通体系調査を予定しており、令和6年度にかけて、都市交通マスタープランを策定していきます。この計画にあわせ、必要性、緊急性や、事業効果を広域的な視点から総合的に評価し、事業化の可否について判断していきます。

【その他の質問事項】

・中心市街地の活性化について

日本共産党議員団



勝川志保子

質問者



誰ひとり取り残さないSDGsとするため温かな福祉政策を

Q 格差と貧困の解消には、生活困窮者を取り残すことのない様に福祉政策を温かく運用する事が大切ではないか。

A 市民が相談しやすいように、市のホームページ等の見直しを行いました。今後も関係各課や関係機関と連携を取り、各種支援制度を活用し、相談者の自立支援を図りながら、誰ひとり取り残さない支援に努めていきます。

環境破壊を許さないSDGsの推進を

Q 土台となる環境も守り総合的な目標達成をするため、ゾーニングや規制もしながらの地域資源の利活用が必要ではないか。

国の基準を確認し研究していく

A 現在、法令等に基づき、生活環境や自然環境等の保全に十分配慮するよう、事業者へ指導を行っています。国において促進区域を定める基準等について議論が行われており、省令やマニュアルが示される予定ですので、その内容を確認しながら、ゾーニングや規制について研究していきます。

企業だけでなく市民参画を大切にしたいパートナーシップを

Q SDGsの多角的展開を図るためには行政、市民団体、地域、個人などが積極的に知恵と力を発揮できるプラットフォームが要だと考えるがいかがか。

A 市民参画によりSDGsの取り組みの活性化を目指す

市や企業がプラットフォームで共創していく取り組みの中で、市民団体や地域、個人にも様々な形で参画していただき、持続可能なまちづくりに向けた取り組みの活性化を目指していきます。



SDGsのウェディングケーキ図